

九州大学新聞

<https://hdl.handle.net/2324/1520281>

出版情報：九州大学新聞. 85, 1933-03-20. 九大法文会
バージョン：
権利関係：



九
大
學
新
聞

論 說

「法文部に於けるは、春三月三日、近頃の卒業生を送るに、三月の聲聞く毎、感慨の念切なるを覺へ、此等卒業生は過去に本學を去り、社會の功績にて過去に本學を去り、會人としての機能を表すべくその最も目の所信に因つて進むのである。もれより數百名の新卒業生は既に方向の迷はれてゐる。云つた此等卒業生は、併し大体か生活の途を講じなければならぬ。」

「何處へも耳馳さればは、いふ悲痛の聲を耳にするにその心情には深甚の同情を禁得ないが徒に「就讀」のみに狂し所も擇はす勞力精神を消費せぬ食物にされるは自己冒瀆とせはねばなり、一流と思はれざる大言壯、大銀行に聘するものもつて詳細に檢討するを幾多の「イチキ」が發見され、學生は過去の事實より我等が屢聞く所である。」

「就讀したるは、言葉は現今の過激に昂奮し、學生の耳に同聲感の響を與ふる言葉であらう、而してその幸福を大に關する程に既た、」

「僕た、」

機械論觀念論的
唯物史觀
大森義太郎氏の近業

形式上より見たる
室行

は最近矢張り早くに唯物辯證法
の辯證法、唯物史觀の諸論作
を取った。その大部分はロシヤ
の勞作の翻譯であり、教程
として共同製作されたものであ
る。ゾモフスキー、ヴォリフソ
フ氏の本論的
の部分は果し
たものである
勿論、我々は
れた史的唯物
を據るべきこ

形式を踏まな
々の缺陷を産
得る。即ち、

つて發展せしめられるかを示
 された。即ち、かくの如き幾
 唯物辯証法、唯物史觀に關す
 作は實に以つてブハーリン式
 論やデボリーン流の日和見主
 なる觀念論との闘争の結果と
 でも、日和見

誤謬の混入を避
が、ましてツク
悪の如き部分

二、内容の
次いで本書を
して見るに、
はれる。大森
に占める地

を目的としてゐるが故に本書にも拘らずこゝに至つては充

シのそれであるが大森氏はこの形式をも取つてゐない。ダウソンが唯物辯証法については甚だ大きい部分を割いてゐない。對して大森氏は本書の半部以上を割いてゐる。又前者が

この事は大森の經濟的構成態、勞働それ自生産力と生産關係の交互作用にて精しく述べてゐるのに對

つてはアレハ
差異について
ルズレーニ
等々の問題は
レーニンがマ
の唯物史觀を

シスキーの辯証法的唯物論は、
に於て大森氏の唯物史觀の前
て、又日和見

で極力排撃されてゐるブハリー
的機械論の導入さへなつてゐ
点がある。大森氏は辯証法のへ
ゲルよりマルクスへの繼承に就

クスへの目的について、又マルクス以前の無學及及び戰術略論のマルクス主義論及び戰術略論を内包するマルクス主義階級闘争の發達に於いて述べてある。しかしその後にマルクス主義を培養した諸學問、諸科學、諸現象のマルクス主義の連關の仕方は、大森氏にあつては、唯獨なる奇案ではないことは、階級闘争の過程として理論上は理解されてゐるのである。それは階級上の發達史、現實に於ける階級闘争の反映として、又階級闘争の分野として描寫すべきではない。

何によりて規定されるかとの問題については、經濟學上の階級闘争、またマルクス主義に、廣く階級闘争が、實の緯線とさしおのの被る労働者階級闘争が、社會的労働の生産をすべて生ずるの要因から説明し、それを労働者段から、資本家階層の搾取から引き出さうとする。彼等に反反對として、空想社會主義者たちは、正當に労働者の勞務、價值の唯一の源泉と見做した。しかし、彼等もこのことが或つた結論として、すべて労働生産性は生産の

三、生産力の規定に於ける觀念性

の誤謬の混入はこの部分に最も

—は史的唯物論に於ける生産力章を書き始めるに際して「社會生産力」といふ概念は、史的唯物の最も重要な概念であつて、それを分析せずには、社會的經濟的成態の發展の起動力について正

な觀念を得ることは出来ない。
産力さといふ範疇は、マルクス主
の歴史理論および經濟理論が正

る。一種の試金石である。しか
に生産力の問題についてこそ、
日でも、マルクス主義文献にお
てさへ、ありさうもない程の數
の曲解があつて、マルクス主義
曰く附きのマルクス主義があ

ことをもう一度証明してゐる。
 と言つてゐるが、このことは正
 大森氏の膽に銘すべき絶好の格
 子である。

大森氏は言を、「我々は労働過程についていまだ少しく考察をめぐす必要があらう。労働過程は如何なる要素によつて構成されてゐるであらうか？労働をそれ自身で、労働対象、労働手段の三つでなければならぬ。それでは、これら三つ

の要素において中心となり、規
的なる意義をもつものはなん
で？労働手段でなければなら
ないか？

義的、或はブーリンの機械論
相貌を遺憾なく指示してゐる。
ズモフスキーに依れば「労働生
性の歴史的発展段階が物質的に
現される生産力なるものは、常
生産過程の物的要因と人的（主

的) 要因との統一——人間の勞力と生産手段との統一である。それは、あらゆる生産過程に缺く

が可能であるためには、この兩
の結合を必要とする。その結合
種々難多な歴史的様式は、所與
歴史上特定の生産様式を規定
る。」と言ふのである。唯單に
働手段にのみ決定的要因を認め

ここは疑ひもなくブハーリン式
技術偏重に陥るものと言はねば

なしには、我々
言も語ることは
あつては「第一
の場合には、社
層建築の意義は
(しかし)上層
働き掛けが存す

たる。そして我々の明かにするけれどもその的に觀察することゝ我々はいま史的部分に説くによつて生動力によつてを明かにした。

能なるものは不動のものは何であることは、かくして生産關係といふ言へに過ぐさず、一言を語ること規定し、

土臺から上層建築への働き掛けがあるが、土臺と上層建築との間に「交互作用」が存在する。この關係はまづ土臺と上層建築との間に確立しなければならぬ。しかしながら、史的唯物論が土臺と上層建築との關係として定するものは單なる交互作用では足りないものゝ如くして大森は正しくもデオロギーの相對的獨立性を承認してゐるのである。しかして大森氏に對する相對的獨立性の承認は金形式的

具店家具田

場」に没落してしまふものゝ故に、メソフスキーに於ける「新」な言ふ公式主義に、その現実的階級闘争公式を代用する義の上層建築ロシヤに於ては、かくして大森丘

は唯形式的に精
い。この曖昧さ
關する論述に基
即ち森氏は

論じてゐるけれども、
に於ける宗教に
ないし、レー
宗教闘争の根本
關係の變革のツ
に少しの注意

家試驗

受賄
昭和八年度
解答
刑事訴訟法
答案

憲法 民法 商法 民事訴訟法

停及び仲裁制
 財政(完)
 論す
 明すべし
 本郷區森川町

受験に關する
 司法科民法論
 司法科民法口
 詰友の天地
 法律顧問
 受験時報

育

電話小石川(85)七八一番 振替東京

佛文

オンの「貨幣數量説」の批判
の研究と佛國醫學の寄與
蘇會士の文獻に現

其研究の衛生行政組織に就て
ハ學者シヤル・ムル
の追憶
監共通法、其現在
將來に於ける機關
〔我社會學者と佛國社會學者との〕

東京・神田・駿河台下 株式會社
振替東京一三五

球撞……店…開

キ シ ニ

跡屋茶御崎箱

～店書浦松

町口橋市岡福

古本を賣る時は
是非共
高價買入の

用 御 大 九

店 服 洋 田 花

詰西町島中市岡福
番三五五七話電

新學期用
新型机本描大賣出し

配達無料

何卒御來店の程を！

具 店 家 田 柴

角停電町居土下多博
目軒八へ演場列陳
番九五九一話電

新荷到着

本年は例年より少し高くなりましたまだ先高で御座いますから少しいまが御徳で御座います

米國
歸朝

洋服商
はのや

電話 福岡市中町島
四一六番

各種専門書

高・價・買・入

洗心堂書店

橋口町六七
電話四六六八番

九大入學受驗者

御宿泊所

福岡市九大學部前

(文法) 農工學部至五分(分)

福岡旅館

電話八十八番

■三階建室多數
■室内寢具清潔

福岡運動具界の寵兒

辻運動具店

天神町 電話 3626 番

筑紫路の博多名産 定價大一圓中五十錢小三十五錢

天下の珍菓
筑紫路の梅

秀山
林山園

販賣所 各各各
土產店 店店店

博多代三丁目

筑紫路の梅本館

電六九〇七番

ハコザキ第一藥局

クスリなら
藥劑師の藥局で

箱崎町網屋電停前
電話八六五六番

文照堂
月刊

珍書新目錄

創刊号
近日發行

御希望の方は左記へ御申込下さい

古本 特別 高價買入 文照堂書店

四百六十六
部 無料
送 呈 限 販 賣

神牛、農具等ヲ神籤ニヨリテ授與ス

神苑ノ紅梅ハ今ガ盛リ

九鐵急行電車ニテハ

觀梅ヲ兼ね二十五日迄ヲ限り割
引福岡ヨリ往復六十錢小兒半額

三月二十四、五日兩日

太宰府天滿宮春季大祭

